

ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミカエル幼稚園
2019年8月19日

月主題：ゆったりと・やってみたい

夏休みが終わり、いよいよ2学期の始まりです。2学期は、ミカエルバザー、生活発表会、遠足、そしてクリスマスと大きな行事がたくさんあります。子どもたちは幼稚園生活を楽しみ、行事を通して、成長していくことでしょう。

さて、1学期、年長さんの男の子のお母さんが連絡帳にこんなことを書いてくださいました。

『何か月か前から、雨が降ると「神さまが泣いてるー」と言っていました。かみなりは「神さまのおなかがなって、おなかがすいたって泣いているからあめがふるんだよ。」晴れは、「神さまがキラキラのお目目で見ているんだよ。」と言っていました。先生に教えてもらったの？と聞くと「ぼくが考えたんだ。」と言っていました。』

これを読んで、職員一同「かわいい。」とほんわかした気持ちになりました。いちご組さんから通われているお子さんですから、小さかった時の姿も私たちの心に残っています。

その彼が3年間、神さまの愛を感じて、そして絵本をたっぴり読んでもらって、こんなに豊かな素敵な心を持った男の子に育っていったのだ、と実感しました。嬉しい気持ちでいっぱいです。きっとこのようなかわいらしい我が子のエピソードを、保護者の皆さんは、毎日、たくさん持っていていらっしゃるでしょう。

子どもは、とにかく成長します。周りの環境をどんどん自分の中に取り入れて、少しずつ少しずつ「自分」を作っていきます。前述のお子さんのように、表現する力、創造する力をいつの間にか身につけていく子、自分の欲求だけでなく、お友達との「兼ね合い」を理解するようになる子、いつの間にか難しいものに挑戦し、体の動かし方を習得して、うんていや木登りが上手にできるようになった子もいます。また、身近な大人が与えてくれるものは、全て「良いもの」と受け取り、自分も「なってみよう」と思います。

では私たち大人がするべきことは何でしょう。それはとにかく「良いもの」を与えることです。最近テレビや、ゲームに触れるお子さんが増えていると感じます。教育的なテレビはまだよいのですが、相手を抹殺するような残酷なゲームは考え物です。子どもは、「これは現実とは違う空想のものだ。」とは認識しないからです。どこまでが現実で、どこまでがうそのものなのか、をはっきりと区別する力はまだありません。(最近では大人になってもその区別がつかない人による事件も起きています。)そして、日常の家族の会話の中で、ニュースや日々の生活の出来事の何が

良いことで、何がしてはいけないことなのかを話題にすることです。

聖ミカエル幼稚園が、毎日のお祈りを大切に、良い絵本をしっかりと選定して購入しているのもそのためです。大人は子どもに良い環境を与える責任があるのです。

私たち大人は、子どもたちをよく見て、今子どもたちの心や体にどんな変化が見られているのか、今大人が手助けすることは何かを考え、工夫しなければなりません。大人によく見てもらった子どもは、小学生や中学生になった時に、よく考える、優しい、正義感の強い子どもに育っていきます。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「弱い時にこそ」

このところファイターズが肝心の試合で勝てないことが多く、気を揉んでおります。選手のインタビューを聞いていると、よく「結果を出す」という言葉を聞きます。野球選手に限らず、勝負の世界に生きている人にとっては、確かに結果がすべてなのでしょう。しかし、私はどうしてもこの言葉が好きになれません。

もしかすると、アスリートが発するこの言葉が、一般の企業や様々な職場でも当たり前のように使われているのではないかと心配するからです。

結果を出せる人は周りから評価され、本人も充実感があるでしょう。しかし、全ての人があるはずがありません。私などは、結果を出せない人、結果という言葉にプレッシャーを受け、人知れず苦しんでいる人がいるのではないかと気になってしまいます。

子どもたちは成長するにしたがって、いつの間にか競争、序列、勝ち負けの世界に組み込まれていきます。その時、たとえ自分の願う結果が出せなかったとしても、それが自分の価値を否定するものではないと知って欲しいと願います。私も何度も結果を出せずに苦しみました。そんな時、聖書の「私は弱い時にこそ強い」という言葉に目がとまります。自分が弱いとき、そこには必ず神さまの助け、他の人の支えがあるのです。安心して助けを求められる人こそが、強い人なのです。結果を出す人よりも、生きる強さを持った人に成長して欲しいと思います。

チャプレン 司祭 下澤 昌